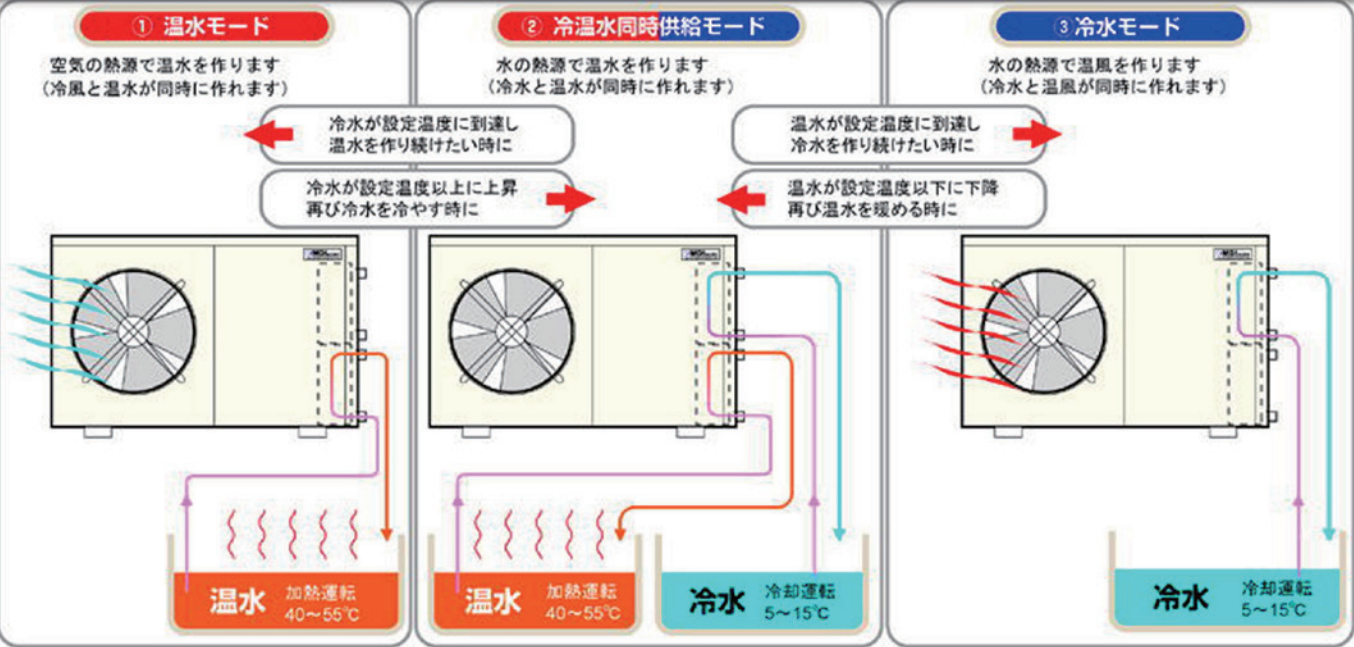


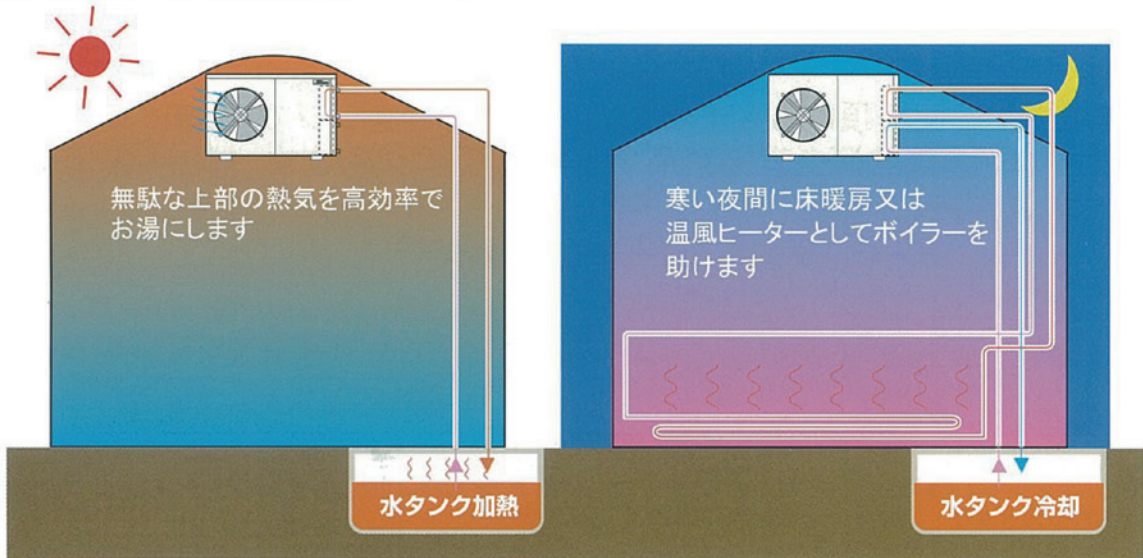
地中熱対応型高効率ヒートポンプ



水熱源空気熱源高効率ヒートポンプの運転



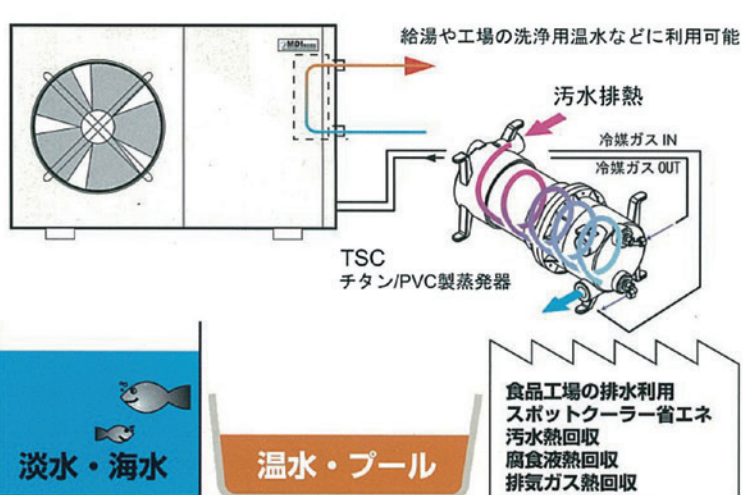
例えば・・・室内の熱を有効利用する場合



ボイラーによる暖房が必要な現場では燃料コストが問題となる場合がありますが、とくに夜間の暖房運転はボイラーの燃料消費量を増大させます。ヒートポンプの有効利用により昼間の太陽熱を有効活用し夜間の暖房熱源とすることでランニングコストの削減を実現できます

備考：別途設備設計業者様との打ち合わせが必要になる場合があります。

10℃以上あれば汚水・海水もヒートポンプ熱源に！

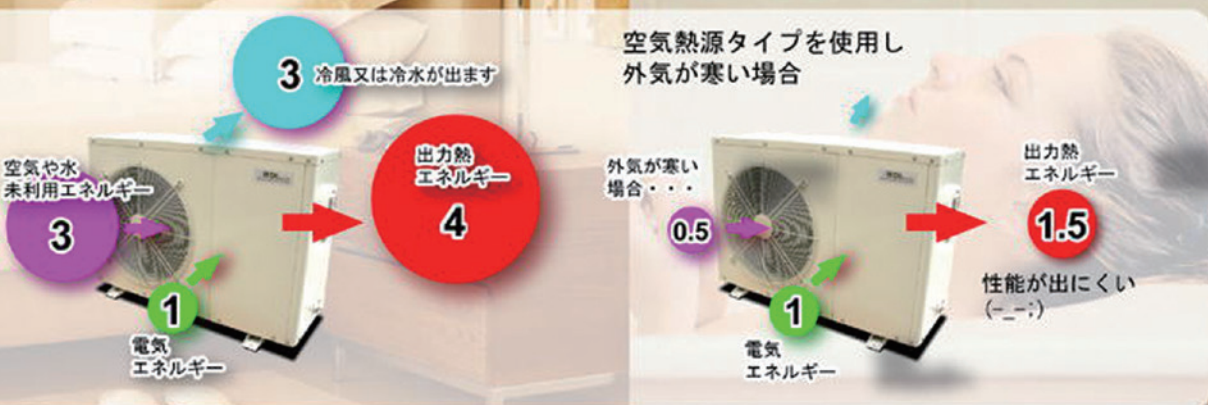


汚水・海水も直接利用出来る省エネエアコン！



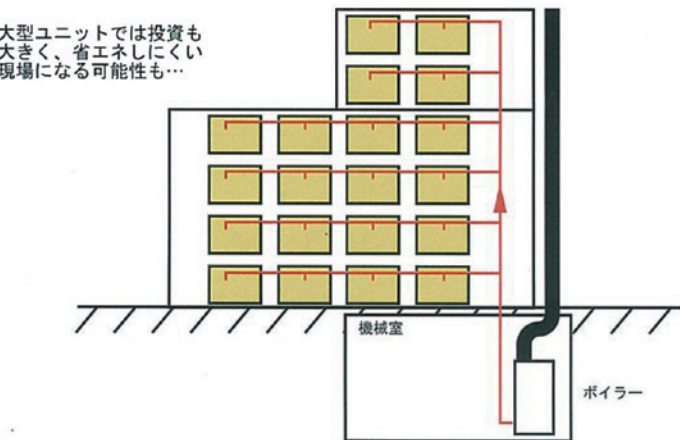
ヒートポンプの原理

ヒートポンプとは、空気や液体の中の熱を低温エネルギーを汲み上げて高温で利用する技術です。もっとも重要な事はしっかりした熱源の確保です。外気が冷たい極低温環境の場合ヒートポンプの性能は低下してしまうために、地中熱や未利用エネルギーの確保をすることで大幅に性能アップが期待できるのがヒートポンプの特徴です。ヒートポンプは燃焼、排気ガスを伴わないため、大幅なCO2排出削減+環境改善に貢献できます。

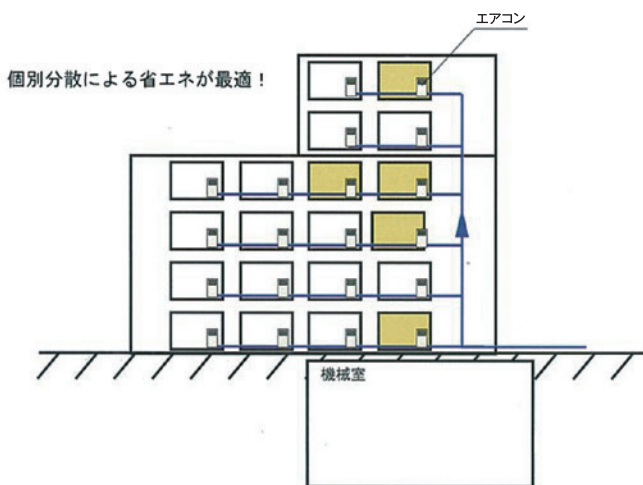


ヒートポンプは、「1」のエネルギーを使って「2」～「3」の熱を吸収し、合わせて「4」～「5」の熱エネルギーを取り出すことができます。同時に冷風や冷水が作れますので、「温」&「冷」を同時に利用する施設では非常にお得な運転となります。また、「夜間蓄熱」を利用すると、割安な夜間電力を使ってヒートポンプを運転し、蓄熱槽の中に冷・温水を蓄えて、昼間に冷暖房や給湯に利用ができます。※機種の性能によって変化します。

旅館・温泉施設・食品工場などに



巨大なボイラーやヒートポンプを設置して全館暖房や、万が一のときの設計・・・という過大なユニットを常時運転させていませんか？



水冷(海水、汚水対応型エアコン)では、必要な箇所に少したけエネルギーを使います。不要な場所は、電気を使いません。さらにチタンコイルを持った水熱源ユニットなので温泉水や塩水でも対応可能です。(カンタンな定期メンテナンスは必要です)